

紙の時代の学術

日時：2025年2月15日（土曜日）11：00～16：00

於：愛知大学豊橋校舎 241教室 （昼食会場として242教室を用意しております）

豊橋鉄道 愛知大学前下車（新幹線豊橋駅から約10分）

オンライン同時配信なし

後日オンデマンドで配信予定

申込み不要・参加無料

学術の急激な電子化が進む現在、これまでの学術を大きく規定してきた紙を基軸とする学術行為の特質を再確認し、これからの学術の方向を探る。

- 1：学術における紙活用の実態を検証し、紙というメディアの学術特性を測る
- 2：総合討論によって、「紙の時代の学術」の特性を浮かび上がらせるとともに、今後の学術への視座を獲得する。

【挨拶・趣旨説明】（11:00-11:10）

【個別プレゼンテーション】

- ・日本における紙と文字の歴史（11:10-11:30）
—書状・日記・経典— 山田邦明（日本史学）
- ・メディアとしての「僧(サンガ)」、スクリプチュアとしての「紙」（11:30-11:50）
—「法(ダンマ)」の伝達ゲームについて— 空井伸一（日本文学）
- ・哲学史研究における紙の意義（11:50-12:10）
—新版カント全集雑感— 下野正俊（西洋哲学）
- 【昼食休憩】（12:10-13:00）-----
- ・「紙」と「庭」のバロキズム（13:00-13:20）
—明末中国の作庭マニュアル書— 緒方賢一（東アジア文化学）
- ・紙からの脱出をめざして（13:20-13:40）
—失敗からの教訓— 山本 昭（図書館情報学）
- ・紙の書法と紙の思考（13:40-14:00）
—書と思考における次元の問題— 木島史雄（東アジア文化学）

【総合討論】（14:10-15:50）

【閉会口上】（15:50-16:00）

愛知大学人文社会学研究所
<http://taweb.aichi-u.ac.jp/irhsa/>
[TEL:0532-47-4167](tel:0532-47-4167)
E-mail:irhsa@ml.aichi-u.ac.jp
お気軽にお問い合わせください

